

めぐみの森だより

2025年 3月号



社会福祉法人 雲柱社 めぐみの森保育園

☎ 03-3480-4448

先日2月のお話し会を、3, 4, 5歳児で実施しました。今回の聖書は、「むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。なぜなら、わらはは弱いときにこそ強いからです。」という箇所でした。「弱いときにこそ強い!？」大人でも理解するのは難しい内容ですね。子どもたちとはこんなところから話を進めていきました。

藤:「強いってどういうこと?」

子:「きんにくもりもり」「けんかがつよい」「わるいひとをやっつける」

藤:「よわいってどういうこと?」

子:「けんかまにける」「げんきがない」

できることがたくさんあることを強い、できないことがたくさんあることを弱いとも解釈できると説明があったため、さらに話を広げていきます。

藤:「強いってというのは、走るのが早いとか、折り紙が上手に折れるとかかな。」「弱いってというのは、走るのが遅いとか、絵が上手に書けないってことかもしれないね。」「じゃあみんな強いと弱いではどっちがいい?」

ほとんどのお子さんが「強いがいい」と手をあげていましたが、5歳児では2人が弱いに手を上げていました。

藤:「なんで弱いがいいの?」と聞いてみると

子:「できなくて失敗したら勉強になる」「できなくても練習すればできるようになる。」

さすが5歳児、違う考えももっています。

お話し会では毎回、讃美歌をみんなで歌います。5歳児クラスでは、伴奏担当の羽石先生がピアノではなく、“エアロフォン”という笛のような楽器の演奏に合わせて歌いました。

藤:「さっき羽石先生が弾いていたのはエアロフォンという楽器なんだけど、いつもはピアノで弾くけど何で今日はピアノじゃなかったと思う?」

子:「ぴあのができないから。」

さすが5歳、ほしい答えを言ってくれます。

藤:「羽石先生は、ピアノはできないけど、みんなと歌を歌いたくなってエアロフォンを練習して、できるようになったんだって。そんな羽石先生どう?」

子:「すごい!!!」

そんな話で盛り上がっていると、

子:「やっぱりよわいがいい。」「よわくてもいい。」

と言い出す子どもたちもいました。「弱い時にこそ強い」、はじめは理解することが難しかった内容も、子どもたちと進めていく中で、何だか少し理解できたように思います。このようにお話し会では、聖書箇所の解釈を子どもたちにできるだけわかりやすく伝え、子どもたちが感じたことをやりとりすること大切にしています。今回のように思いもよらない返答が返ってくることもあり、大人の私が子どもたちから気付かされるのがたくさんあります。

もうすぐ、進級、卒園を迎えますね。今回はお話し会の様子を載せましたが、こうして子どもたちと積み重ねている日々が、今後の子どもたちの未来への支えに少しでもなれていたらいいなと願っています。



記:園長 藤本 紘子